



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年6月1日

6 月 第232号

奈良・人と自然の会



＜活動再開を待ちわびる 誰もいない「ならやま」＞



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

会長退任挨拶	1	ペタキン池の歩み③	8
新会長就任挨拶	2	私の洋蘭とのお付き合い	9・10
Monthly Repo ならやま	3	字遊字感	11
ならやまプロジェクト	4	野菜の病害虫の見分け方	12
里山の今	5	Galleryならやま	13
総会・レポ	6	組織体制変更のお知らせ	14
平城宮跡草刈り・レポ	7	幹事会報告・行事案内・編集後記	15

会長退任のご挨拶

鈴木 末一



会長職を仰せつかってはや5年が経過しました。これも、豊かな知恵と経験をお持ちの会員の皆さんに支えていただくことができたことと共に、当会の活動理念にご理解とご支援を賜り、「志金」をご助成いただきました財団や企業のご高配の賜物と深く感謝いたしております。

就任当初、活動の元手となる資金面(助成金)で苦労しました。思いの丈をぶっつけて書き上げた申請書を提出し朗報を待ちわびるものの、首尾よくいかないことが続きました。思案の末に、審査業務経験者の方に指導を仰いだこともあり、添削していただいた申請書は、助成対象の事業が自己満足の域に留まっており、地域など外部への波及効果などが見えない次元のものだから、助成される対象まで到達できていない、と厳しく指摘されました。つまり、発信と成果を明確にすること、どう地域貢献できるのかなど事業内容の向上を考えること、これが重要であることだと理解できました。「資金は志金だ」と思い当たってからは、ほぼ順調に助成金を確保できるようになり、「資金は志金」の信念は強まるばかりでした。

助成金に関わる団体の代表者会議に参加の機会も増え、全国各地で活躍されている団体との交流を通して組織運営面でのノウハウなどを学ぶこともできました。学ぶことの多さに気づき、時には押しつぶされそうになる自分自身を叱咤激励して鞭打つこともしばしばでした。

ヤマはまだありました。2016年、当会創始15周年節目の年、記念誌の編纂という一大プロジェクトを初めとして、一泊月例研修会、歴文一泊研修会、記念新春講演会など、一連の記念事業を遂行しました。

同年10月に「生物多様性アクション大賞入賞」、11月に「第36回緑の都市賞・市民の協

働活動部門奨励賞」「第7回あしたのなら表彰」と、トリプル受賞に輝くことができました。

続く17年には「緑化推進運動功労者・内閣総理大臣表彰」を受賞、4月28日、東京の憲政記念館における式典に出席し、平成天皇皇后両陛下はじめ三権の長、内閣官房長官、関係4大臣の皆様方に拝謁、特に天皇陛下からは直々に励ましのお言葉を賜りました。

当会創立15周年、ならやま景観整備保全活動開始から10年の節目に、錦上花を添えていただいた。ひたすら夢と理想に向け尊い汗を流してきた、志を同じくする個性集団にとって、この上ない贈り物であり、使命の重大さを再認識させられる出来事でした。

19年8月22日、「朝日新聞」の一面コラム「天声人語」に図録「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」が取り上げられました。結びに「会員170人に年齢を掛ければ、知恵と経験は延べ1万2千歳を超す」と、当会の実体を見事に表現していただき、市民目線による最高の評価をいただきました。

この5年間は私にとって、まるで陽光を浴びる「ひまわりの花のような月日」でした。

奈良県景観・自然環境課並びにシニア自然大

学校には、適切なご指導ご助言を賜りました。また、助成金を通して当会を激励していただいた関係団体のトヨタ環境活動助成事務局・兼岩様、コメリ緑育成財団・加藤様、(公財)都市緑化機構・小松様、(公財)イオン環境財団・飯田様、東京海上日動(株)・高津戸様、日本NPOセンター・中川様、奈良県林業改良普及協会・衣田様、ならコープ・中野様方をはじめ多くの皆様方にはご芳情ご支援を賜りました。

皆様の“陽光”に厚く御礼を申し上げます。今後は顧問として活動に関わってまいります。「すべては次世代の子どもたちのために」を片時も忘れることなく日々過ごしてまいります。どうか従前同様ご厚誼賜りますようお願いいたします。有り難うございました。

会長就任のご挨拶

千載 輝重



まず最初に、鈴木前会長にはコロナ禍中のかじ取りという難しい局面にあたって、一年間の続投をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。その間、私も会の運営について多少理解を深めさせていただき、まことに大任で大きな不安を抱えつつも、重責を担うことを決意いたしました。

さて、当会は2001年9月24日に呱呱の声を上げてから今年は20周年、ならやまプロジェクトは15周年という節目の年にあたります。諸先輩の方々が会の理念「私たちは大和の自然を愛し、よりよい自然環境と歴史的風土を次の世代に引き継ぐために、明るく、楽しく、無理をせず活動を続けます」のもとに、多岐にわたる活動を展開してこられた結果、会員数は170名にまで増加、活動の主体となった「ならやまプロジェクト」には毎週80名前後が参加しています。この間、関係諸団体から「志金」のご支援を賜り、数々の表彰を受けるなど高い評価をいただけてきました。まさに、当会の活動は成熟しピーク状態にあるといえます。

私たちに課せられた最大の課題は、この素晴らしい果実をどのように活かし守り続けるかです。

一方、活動の広がりに対して、高齢化が進むことにより、体力パワーは減退していると思っています。平均年齢は毎年1歳弱ずつ高齢化して現在は74歳です。体力を必要とするならやまプロジェクトでは、各種助成金にも助けられながら、様々な設備・機器を導入してきました。今でも、会員の皆さんからは、活動負荷を軽減するための動力機器のさらなる導入要請があります。しかしながら、一度導入した設備・機器には、その後も補修費用・更新費用が発生し、

活動継続に必要な「固定的な」費用は増大します。こうした背景もあり、現在の財政状況は厳しいものとなっています。

それでも、攻めは防御の要であり、ならやまでの活動と自然文化活動の大きな2本柱を中心として、いろいろなことにチャレンジする前向きの「多様性」は失いたくありません。どのように活動すればより効果的に成果につなげることができるのか、体力は不足しても1万2千歳の知恵があります。

新春ならやま研修会では、里山グループの取り組みを振り返り、ならやま里山林についての理解が深まりました。エコファーム、景観、パトロール、果樹の各グループも含め、それぞれが今一度これまでの活動を振り返り、ならやまでの活動のあり方についてもじっくりと考えてみる時期にあるのではないかと思います。

コロナ禍で先行きに予断が許されない状況ではありますが、20周年の節目に、「明るく、楽しく、無理をせず」の原点に戻って、そして「あなたも私も、力を合わせて」、これからの5年、10年先の中長期ビジョンを見出せればと考えています。

基本的な活動方針は、これまでを踏襲しつつ、次のとおりです。

- ①会員が主役であることを念頭に、参加者があらゆる情報を共有し、ともに考える。
- ②地域社会の一員として市民の協働活動としての礎の強化を図る。
- ③ならやま里山林の管理責務を踏まえつつ、自然環境保全活動の中で生物多様性を維持復活させる。
- ④より安定的にゆっくりと無理なく実現できる長期ビジョンについて見直し/再確認し、取り組む。
- ⑤幹事会をはじめ、諸会議・組織を活性化し、会員への発信、会員相互のコミュニケーションを促進する。

以上、思いの一端を述べさせていただきました。顧問、参与、幹事をはじめ、会員の皆さんのサポートをいただきながら、微力ではありますが努める所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Monthly Repo. **ならやま**

徳地 恵男

4月22日(木)活動 晴れ 65名 近大生3名

草が伸びてくる季節に備えて刈り払い機の安全講習会が開かれる。JAから2名の講師を迎え、21名が講習を受け女性が半数を超える。



る。彩りの森で器具の扱い方や安全面の指導が丁寧になされる。続いてグループに分かれて草刈り実習。初めての体験に意欲的に取り組む。里山Gは林内の笹刈り、チッパー作業。エコGはカボチャ、エダマメの苗を植え付け、水やりをする。景観Gは彩りの森の草刈りを完了する。ビオ班は近大生によるタガイ移入と池の整備、花班は山野草園を除草し腐葉土を入れる。パトGは観察路案内板の取り付け。果樹Gは鹿よけネットの補充、梅林の草刈りをする。

4月27日～ ならやまでの活動は休止

コロナ感染防止と医療体制を守るための対応。

ならやま活動を振り返って(この一年)

コロナ感染予防のために休止期間があったり、参加を控えたりした会員も多かった。しかし振り返ってみて、ならやまでの一日一日は貴重な活動として充実していたように思う。ならやま活動の一年を振り返ってみた。

6月 4月5月が休みとなり、2か月振りに再開された4日の参加者は83名だった。

一人一人にフェイスシールドが配布される。

田植えは小学生の参加はなく会員で行った。

スパイダーモアーを購入、威力を発揮する。

7月 「夏だ!休みだ!里山で遊ぼう!」は午前中だ

けのプログラムで開かれる。21名の親子が里山体験を楽しんだ。

8月 20日は猛暑のために活動中止となった。

9月 17日から全日の活動となる。朝の会では各グループから活動について説明があり、終わりの会も開かれるようになって日常が戻った。

四阿に荷物台が3つ製作された。荷物の整理ができ、昼食の座席に余裕が生まれた。

東大寺建築ワークショップに参加した学生に竹材を提供し5大学の学生との交流が始まった。

10月 メンテ班を中心に取り組んだ緑陰広場の水路工事が完成し活動場所が広がった。

15日はこの年最高の92名が活動に参加した。芋掘りイベントには72名の親子が参加。

22日の稲刈り、29日の脱穀には佐保台小5年生が参加し、収穫された黒米は給食の献立にあがり全校放送で紹介された。

11月 佐保自然の森の整備作業を集中して行い、林内は徐々に整備されていった。

12月 10日は芋煮会。エコG中心に開催され、例年になほどの美味しい芋煮をいただいた。展望広場が整備され、展望台からはならやまの里山全体を望める新しいスポットとなった。

1月 初出式に花班特製の七草粥をいただく。10年継続会員記念植樹、富有柿の苗木を植えた。協働活動ではコナラ櫓木にシイタケ菌打ちを行い、一日で160本を仕上げた。

新春ならやま研修会を実施。里山活動について神戸大学黒田先生からリモート講義を受けた。

2月 第2駐車場が整備されて広がった。カツラ、キンモクセイなどたくさんの苗木がベースキャンプ周辺里地を中心に植樹された。

学びの森について、モニュメントやイベント広場などの整備計画の検討が始まった。

3月 ベースキャンプ周辺に放置されていた鉄くずやごみを片づけてきれいになった。

実りの森に頻繁に鹿が出没。防護柵を作ったり苗木を鉄条網で囲ったりするが対策に苦慮する。

4月 刈り払い機の安全講習会を開催した。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

6月の活動について

活動時間は午前中 9:00~12:00

6月10日: 協働活動日(田植え)・アダプトプログラム

・雨天時、田植えは6月15日 臨時活動

6月24日: 備品点検日

6月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	No18地区部分皆伐地区整備・チップ処理、薪割り、楢木下伏せ準備、下草刈り ユート:アカマツの森北面地かき
エコファーム	田植え(佐保台小、会員)、 さつま芋ツル移植、蔓返し、土寄せ、ジャガイモ収穫、 サトイモとサツマイモ除草、追肥
景観	整備:BC周辺・彩りの森草刈り整備、ミツバチ巣箱周辺整備 ビオ:水路・木道整備、西池水生生物調査 花:菖蒲園・アジサイ園・山野草園・その他花壇の草取り整備、夏花施肥
パトロール	1~4コースパトロール、観察路笹草刈り、保護植物点検、丸太階段整備
果樹	鹿よけ柵建設、果樹園除草、ウメ収穫

<特記事項>

- ① コロナ禍の中で活動を再開するにあたり、3密対策「厳守」とともに、以下の対策をとる。
・午前中(9:00~12:00)の活動とする。(昼食時の交流を避ける)
・朝礼は、座席は準備せず、全体に周知すべき事項のみ簡潔に伝える。
・終礼は各グループにて実施し、特に全体で共有すべき事項はGLが会長、総務部長、ならやま委員長のいずれかに報告する。その内容によっては別途、全体への周知を図る。
- ② 水田東側(サイクリング道路からの排水口)水路整備を行う。
- ③ 学びの森の再整備に向けて、モニュメントの設置を含めてデザイン案を具体化する。
- ④ 鹿害対策として、防護柵を建設する。

活動日: 毎週木曜日 9:00~12:00(当面の間は午前中)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



里山グループ

◆未来へのタスキ

浅岡 伸也

私は3年前に入会したが、最近は里山Gに来る事が多くなった。自然の中で体を動かすのが好きなので性に合ってるようだ。

2月の新春セミナーで講師の黒田慶子先生が、里山のあり方についてオンライン講義をされた中で、里山の管理はきれいに掃除して美観を保つ事だけではないということ言われていた。間伐をして日光が入るようにしたり、植樹や萌芽再生により落葉広葉樹を育成して適正な環境を維持することが大事で、さらにその活動を持続させていくことが必要との話を伺った。

ならやまでは今年も里山林の樹木調査を実施し、計画的に部分皆伐や植樹が行われている。

伐採した木はシイタケ栽培用の楢木にしたり、構造物の材料として使用したり、薪ストーブ用の薪として販売したりして資源や財源に活用している。

代々のメンバーの方々の努力でならやまの整備と再生が行われてきたが、この活動の意義と楽しさを次世代に引き継ぎながら、さらに資金を生み出す方法を考える事がこれからの課題になってくる。私も微力でもその活動の一端を担い、未来の世代へのタスキを繋いで行こうと思う。



里山の今

果樹グループ

◆千客万来

岩崎 雅子

いま、果樹グループは目が離せませんよ！

私が入った3年前は、女性は2人だけ、それも片方が休めば、本部から離れているがユエ、一緒に休もうか！となっていました。

それでも、男性陣に大事にしてもらっていましたよ。

今ではチャキチャキが6人になり、逆に休みづらくなりました。

実りの森は別世界です。広々としたなーにもないところに、植樹の手伝い、厳しい目線を背中を感じながらの梅の剪定。ワイワイにぎやかな素人集団です。

笹刈り、雑草取り、木々の片付け、力仕事も。ボランティアだからサボりもせず、みなさんそれぞれ力の限り動いている様子を見ると、すがすがしいです。

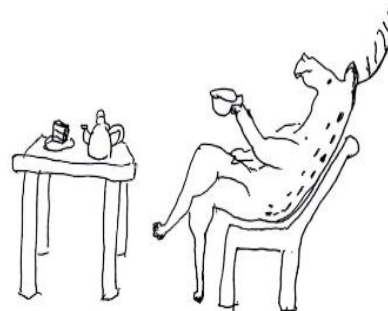
さあー、一服してお茶にしましょうか！川勝さん作の長いす、テーブルまで出来ていました。男性陣も集まってきて、ニコニコとすこぶる楽しそうです。他のグループの方もどうぞと、一緒にティータイム！！

そのうち、ここに“カフェ カジュ”が出来るかも。

みなさん、どうぞお越しください。ちょっと、遠いですが！

招かざる侵入者もいます。

千客万来！！



2021 年度

第20回通常総会・レポ

田中 善英

5月15日(土曜日)13時30分よりホテルリガーレ春日野1階吉野の間にて、2021年度第20回通常総会が開催されました。

参加者35名(内リモート参加者11名)と委任状提出者94名を合わせて会員総数162名の過半数を満たし、総会は成立しました。



鈴木会長の開会のご挨拶に続き、中井弘さんが議長に選出され、第一号議案の審議が開始されました。

最初に鈴木会長から、「前年度末からのコロナウイルス感染拡大に伴い、5月末までの活動自粛を余儀なくされました。しかし、それらの困難を乗り越えて中長期にわたるビジョンの明確化を目指して組織体制の改革を行い、運営のあり方などのスキルアップを図った。また、ならやまでの活動やボランティア活動や地域社会の一員としての活動を行った」との総括報告がありました。



続いて、ならやま委員長、各グループリーダー、総務部から事業報告、会計担当から収支報告、総務部長から森林・山村多面的機能発揮対策交付金について報告がなされ、最後に監査役から会計および交付金については適正に処理されているとの監査報告があり、第一号議案は満場一致で承認されました。

第二号議案の審議の前に、議長から「幹事の辞任および役職異動に伴い、臨時幹事会を開催する」とのことで、総会が中断されました。

午後2時20分に総会が再開され、まず始めに千載幹事から、臨時幹事会にて、幹事退任(鈴木末一、澤田好男)と、役職変更(会長:鈴木末一→千載輝重、顧問就任:鈴木末一、副会長5名のうち1名:千載輝重→小島武雄、会計担当:田矢恵造→有元康人、広報GL:千載輝重→田中善英)について承認された旨の報告がありました。

続いて、この日をもって会長を退任される鈴木会長からご挨拶をいただきました。(本誌p1に退任挨拶掲載)そして、千載新会長がこ



れまでの多大のご貢献に対してお礼の言葉を述べられたあと、会員からの感謝の気持ちを込め

た花束が贈呈されました。

第二号議案の審議が開始され、最初に千載新会長からの就任の挨拶があり(本誌p2に就任挨拶掲載)、事業活動方針についてはこれまでを踏襲していくとしつつ、いくつかのコメントがなされました。



続いて、ならやま委員長、グループリーダー、総務部長から事業計画、会計担当から2021年度予算案について説明があり、第二号議案は満場一致で承認され、第20回通常総会は終了しました。



今年も懇親会がなく淋しい面もありましたが、リモート参加という新しい試みもなされ、滞りなく遂行できたことに、ほっと胸をなでおろしました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

1300年の歴史を刈り取る

(平城宮跡 草刈りレポ)

太田 和則

平城宮跡の東側、東院庭園と24号国道バイパス沿いのミ・ナーラとの間にある広大な農地のうち、3区画約600坪の雑草生い茂る水田跡である。4月中旬に奈良県から草刈り整備の依頼があったものの、その後、近隣府県が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象となり、これを受けて奈良県でも緊急対応措置が発表され、会としての活動も自粛している中、3度の調整を経てようやく実施日が決まった。

ゴールデンウィークも終わった5月6日、雨の合間の快晴、無風、気温25度越えの夏日での作業。まだ暑さに慣れていないこともあり、さすがに体が気候の変化についていけないようであり、へとへとになりながらの草刈り、なんとかその日のうちに予定していた作業を無事終了した。



写真は、3区画のなかで一番広いところ。見た目には、草丈約40cmで、長く細い素直な草、、、均一な雑草にところどころ蓮華草やクローバーが混じっている。

これなら、あまり時間もかからないで仕上げる事ができるな、と思いながらスタートした。エンジン刈払い機に加えて自走式草刈機の助けを借りて作業開始。力強いエンジン音が響き渡る。当日は平城宮跡の駐車場は閉鎖、東院庭園も閉園していたようで、観光者はかなり少ない。エンジン音はことさらに高く響き渡った。

作業が進むにつれ異常に気づく。刈払い機が滑

るのである。そして自走式草刈機が刈った跡もマダラ模様になっていてちょっと見苦しい。自走式草刈機を往復しても、草が捻れて、おさげ髪のようになり、ピロピロと残ってしまう。粘っこくてスパッと刈れないのである。しかたなく、最終はさらにループ刈払い機できれいにするという三重の手間をかけて仕上げる羽目に。



それだけではない、南側の側道沿いの1区画が前日の大雨で水田そのものの状態。自走式草刈機は入れず、刈払い機は水しぶきをあげながら滑り、ループ刈払い機はさらに水しぶきをあげる。まさに田んぼの中での作業であり、泥に足をとられて動きもままならない。当初、甘く見た予想をはずれて、見た目とは大違いの悪戦苦闘の末、なんとかその日のうちに仕上げる事ができた。

暑い、日陰ゼロ、疲れた～！

さすが1300年を越えて生き残るしぶとい宮跡の雑草は一筋縄ではなかった。

ベースキャンプに戻って、機械器具等を片づけ、ぐったりとした体とは裏腹に、なんとかやり遂げたという達成感を仲間と共有できたことに満足。

ともに戦ってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

そして、本当にお疲れ様でした。



◆ペタキン池の歩み③

羽尻 嵩

2013 年度の結果：ニッポンバラタナゴは107 匹に増えたが、タガイは投入した15 個体のうち4 個体が死に、稚貝も見当たらず、シマヒレヨシノボリは3 匹しか見つからなかった。

2014 年度に、ヨシノボリは、15 匹から29 匹に増え、3

年目で育種に成功した。

しかし、タガイの育種はこの年も失敗で、その後未だに成功していない。



(写真はアメリカザリガニの被害を受けた貝)

タガイの育種として、これ

まで、タガイを捕食するアメリカザリガニの駆除やタガイの生育に悪影響を与える粘土質の泥の掻き出しには力を入れてきたが、何かが足りなかったのだ。

近畿大学の北川研究室の意見も参考にして、田中善英さんと協議し、タガイ育種だけの池を造ることになり、ドジョウ養殖のために造って



いた池を改造してタガイ池を完成させた。

★タナゴ池の造成とタナゴの育種で特にお世話になった方々。

川勝孝雄さん・・・池周辺の歩道橋作りで常にお世話になってきた。

田中修さん・・・

タナゴ池育種の2 年目ぐらいから池のメンテナンスでお世話になっ



ていたが、病気で他界され、残念です。

田中善英さん・・・数年前から、池の管理・整備に広い視野で取り組んでいただいている。



近畿大学の北川忠生先生とタナゴ池担当(年度ごとに数名づつ交代)の学生たち。

★タナゴ池の活動で特に記憶に残ったこと

・2012 年4 月27 日 池中に春の日差しを受けて動くものを見つけた。後で調べてみると、

ならやまでは見たことのない4 cm 近いスジェビだった。どこに潜んでいたのか。陽気にひかれて動き始めたのか。自



然界の生命力の不思議さを感じた。今、スジェビは池に溢れている。

・2013 年5 月8 日 カワセミが池のネットの



狭い隙間をかいくぐって池の中に入り込んでいた。鳥の感知能力には驚くばかりだ。

(これでこのテーマは終わります)

私の洋蘭とお付き合い

坂東 久平

洋蘭とお付き合いを始めて 50 年余りになる。1960 年に社会人となり北九州市の工場に勤務していた。未だ真面目な(?) 青年だったようで、研究室で実験をする毎日であった。

その頃、古参の Y 課長から「仕事ばかりではなく、一生できる趣味を」と指導を頂いた。

1965 年頃、若手スタッフと現場課長との懇談会有り、N 課長と植物の話に花が咲いた。一度遊びに来ないかと誘われ「曲里の社宅(煉瓦塀に囲まれた庭付きの家)」にお邪魔した。N さん自慢の温室には洋蘭がぎっしり詰まっていた。スッカリご馳走になり帰ろうとしたらお土産があった。段ボール箱に洋蘭の小鉢が数個入っていた。「枯れても代わりがあるから大丈夫」と言われて、不安ながら持ち帰った。これが洋蘭との出会いの始まりで、一生の趣味となった。

その時は結婚して社宅のアパートに住んでいたが、早速ベランダに置き場を作り、冬はビニールで囲いをして育てたが、花が咲かなかった。

この洋蘭はデンドロビュームだったので、耐寒性はあるが、秋に十分な寒気にさらさないと花芽が来ないことが、原因であった。

北九州洋蘭愛好会に入会し、多くの先輩から株分けしたカトレア、デンドロビューム、パフィオペデラム、シンビジュームなどを頂いた。現在保有の殆どは無償で入手したものである。

住まいが「曲里の社宅」となったのを機会に、アルミの温室を購入した、2 坪の小さなものなので温度管理が大変であった。

鉢の数もどんどん増えて 80 余りになった。ラン科植物は、被子植物の中でもっとも種数の多い科で、世界に 700 属以上 15000 種、日本に 75 属 230 種がある。南極以外の熱帯から亜寒帯に広く分布しており、主に熱帯性のものが洋蘭として栽培されている。温帯性の東洋ランもある。

洋蘭 4 大種族の、カトレア、デンドロビューム、パフィオペデラム、シンビジュームを一通りやったが、現在はカトレアとデンドロを中心栽培している。

1978 年に大阪に転勤した。この時の引越は大変で、家具類以外に、車、飼い犬 1 頭と解体した温室、梱包した洋蘭などがあり、大型トラックでの移送であった。(費用は会社持ち)

西宮の移動先で会社の同僚などとトラックの到着を待っていると、大事件があり「トラックが途中で乗用車と正面衝突しトラックは無事であるが、代わりの運転手を派遣中で、到着は明日」と連絡があった。子供たちは愛犬のことを随分心配した。

明くる日にトラックは無事到着した。愛犬も元気で檻の中にパンが差し入れてあり、笑ってしまった。洋蘭の梱包には、衝突の激しさをしのばせるガラスの破片が入っていた。

次の東京転勤を予想し、2 年後に奈良に持ち家を購入し、また引越をした。今度は、温室の基礎工事・組み立てを自力で行った。

(金は無かったが、暇はあったようである)

*東京勤務単身赴任中は、家内に面倒を掛けた。

温室の温度管理には、随分と手を掛けている。2 坪の温室は、内容積に比し、表面積が大きく、外気の温度変化で内部温度が大きく影響される。暖房費も大変で、最初は石油ストーブを使っていたが、何度か油切れでススが発生し、洋蘭がススで真っ黒になってしまった。

これにこりて、現在は農業用温床線をサーモスタット(金魚水槽用)で管理、指定温度以上になると、換気扇が運転開始するようにした。春と秋には温室の天窓や横窓の開閉などが大変。夏場は、屋外に出し寒冷紗で 50% 遮光。

植え替えは数年に一度、春か秋に行っているが、株数は増やさず余分は貰い手もないので廃棄している。現在は株数も 40 余りに減ってしまった。

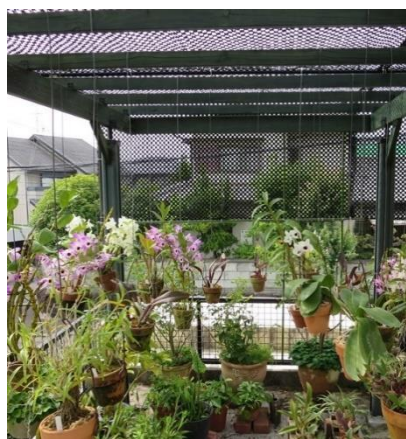
次ページの代表選手達をご覧ください。

HPでカラー写真をどうぞ

アルミの温室



夏の屋外置き場：寒冷紗



Den. Yukidaruma "King"



Den. Gatton Sunrey



Den. Angel Flower No.32



Den. Perfection



Pot. Love Tapestry '2-8'



C.Angel



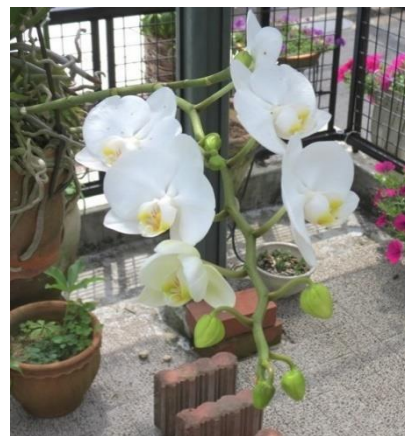
Slc.Angel



C. Fabingiana "Hibarigaoka"



Phal. amabilis



Phal.?





「運」の正体

岡田 安弘

人類の誕生は偶然が重なった結果だ。中学の生物の時間に習った。「およそ20億年前、ひとつの単純な細胞が揺らぎ、別の細胞を取り込むという偶然から全ては始まった」。先生は声を張り上げていた。

神秘は続く。細胞の司令塔とも言えるミトコンドリアがDNAに影響を与え、複雑な生命の進化を生む。今も偶然は至る所に潜んでいる。それを我々は運の良し悪しなどと呼ぶ。かく言う当方の浅知恵は、進化も運とみなして話を進める。

ルーキーの運

プロスポーツでは、1年目の選手をルーキーと呼ぶ。今年のプロ野球はルーキーの活躍が目立つ。阪神のドラフト（指名入札）1位、佐藤輝明の強運は後述する。2位の伊藤将司（JR東日本）は巨人戦に初登板、初勝利（7回1失点）の快挙。日本ハムの1位、伊藤大海（苫小牧駒沢大）はソフトバンク戦で7回までに11奪三振。楽天の早川隆久（早大）、DeNAの牧秀悟（中央大）ら開幕早々から活躍する選手は、数え挙げればきりが無い。

アンチ阪神の方には申し訳ないが、佐藤輝明は他球団も入札、矢野監督がクジを引き当てた。阪神にとっての好運の始まりだ。

5月2日の甲子園、対広島戦をTV観戦。佐藤は6番打者、守備は右翼。背筋を傷めた主砲の大山に代わって、初めて4番サードを任される。2点を追う5回裏、塁が埋まって打順が回ってきた。それだけでファンの胸を踊らせる。カウント2-2から低めの球を泳ぐように片手ですくいあげ、軽々と右翼スタンドへ運ぶ。

開幕以来、8本目の本塁打が今季チーム初の満塁弾。続く6回裏も満塁。そこでもヒット。この日は5打点、開幕から30試合の合計24打点。セリーグの打点2位に割り込む。満塁で迎

えた打席は、6番打者の時を含めて7打数4安打（5割7分1厘）。この記録を破るのは相当に困難だろう。大山の休養に遭遇した好運もある。強いて不運を挙げるなら、新型コロナウイルスの感染防止で無観客試合だった。

実力も運のうち

ハーバード大の哲学教授で政治学者のマイケル・サンデルのNHK・BS「サンデルの白熱教室」をご覧になった方ならおわかりと思う。能力主義の是非を各国の学生に問い、何が正しいかを議論する。例えば、有名なサッカー選手ロナウドの収入が教師の8000倍というのは高すぎるかどうか。才能の高さは生まれつきの能力か、努力の賜物か。意見が分かれる。

サンデルの新著「実力も運のうち」（早川書房）が売れている。運で成功するのは正義か。道徳と運の関係の是非を問うている。人類の叡智を結集してもここまで。運と偶然の謎は解明できていない。

議論すれど謎は謎

そこで、大学で哲学の教壇に立つ甥っ子に聞いてみた。メールの返信から理解不能な部分を省いて書くと次のようになる。

運に関する哲学的思考には2種類あるそうだ。1つは、運を偶然性という確率的なものと、それを求める意思との複合的概念。つまり、この世には現実としての偶然が存在する。しかも、それは運とか不運と言うときに、「あってほしい、あるいは、あってほしくない」という意思が投影されているとする議論。

2つ目は古代ギリシャのアリストテレス以来の伝統ある議論。道徳は運という要素に左右されるかどうかポイントらしい。正しい行為をするかどうか、そのときの状況などの運に左右されるという。

▽

運と偶然の絡み合いを書いた本は多い。いずれも議論は展開すれど、正体を暴くには至っていない。素人の当方は、そのことの方が謎だ。

野菜別病虫害の見分け方

ホームページ掲載のお知らせ

趣味と実益、あるいは健康管理を兼ねて庭の片隅や貸し農園で野菜の栽培をされている方は多いと思います。また、ほとんどの方は農薬を使っておられないので、ちょっとした油断から害虫や病気が発生し、泣きの涙となることも多々あるようです。

トマトの葉に変な虫がいる、ネギの葉に赤い錆がついた、葉が萎れた、キュウリの果実に孔があいた、この原因は害虫？あるいは病気？手元にある虎の巻（参考書）を調べてもよく分からない、何も手をうたなくてよいのだろうか？

病虫害の専門図書を調べればすむことだが、手元にはないし、図書館に行って調べるのもおっくうだし。そのような家庭菜園愛好家に対して一目で分かる便利な虎の巻をホームページに掲載しました。ぜひ一度ご覧ください。

野菜の種類ごとに奈良県で発生する病虫害の写真と一口メモの説明があり、簡単に診断できます。ただし露地の家庭園芸家向きですので、ハウス栽培や広い面積で行うような営農栽培で発生する病虫害は対象にしません。

<掲載している野菜一覧>

果菜類	ナス、トマト、キュウリ、ニガウリ、カボチャ、オクラ、ピーマン、トウガラシ
葉菜類	ホウレンソウ、レタス、アブラナ科菜類、ミツバ、シソ、ハクサイ、ネギ、ワケギ、キャベツ・ブロッコリー
根菜類	ダイコン、カブ、ゴボウ、ニンジン、タマネギ、ニンニク
いも類	サツマイモ、ヤマノイモ、ジャガイモ、サトイモ
豆類	ダイズ、ソラマメ、エンドウ
その他	トウモロコシ、ショウガ

参考までにナスとトマトの病虫害の写真を紹介します。何か分かりますか？

【ナス】



【トマト】



<ホームページの探し方>

「奈良・人と自然の会」ホームページ（<http://www.naranature.com/>）の「エントランス」画面下部の「オリジナル参考資料」に「野菜別病虫害の見分け方」として掲載しています。



▲オイルパステル画 菜の花 有元康人



▲野の花染め 花挿し 小島武雄



▲折り紙 鯉のぼり 桜木晴代



▲竹細工 武者人形 鈴木末一

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

組織体制変更のお知らせ

総務部

2021年5月15日開催の臨時幹事会において、組織体制の変更について承認されました。

変更点は以下のとおりです。

1. 幹事退任（辞任） 鈴木末一、澤田好男
2. 役職変更
 - ・会長：鈴木末一→千載輝重
 - ・副会長：5名のうち1名 千載輝重→小島武雄
 - ・顧問：1名増 鈴木末一
 - ・会計担当：澤田好男→有元康人
 - ・事務GL：千載輝重→小島武雄
 - ・広報GL：千載輝重→田中善英

これまで同様、会員の皆さん一人ひとりが主役であるという基本に立ち、多くの方が積極的に参画していただけるよう努めますので、新しい体制での会の運営にご協力をお願い申し上げます。

奈良・人と自然の会 組織体制表				赤字：変更		2021.5.15	
＜役員＞							
幹事		青木幸、有元、太田、尾崎、小島、澤田、鈴木、千載、田中善、田矢、辻本、徳地、戸田、富井、富江、平田、福田、三瀬、森・・・17名					
監査役		吉川					
＜役職＞							
会長		千載					
副会長		太田、小島、辻本、富井、平田					
会計		尾崎、有元					
顧問		阿部、鈴木					
参与		古川					
＜組織＞							
部門		部長	グループ	GL			チーフ
総務部		辻本					
			事務	小島	庶務 渉外 イベント 助成金事業		田矢、青木幸 戸田 平田、村上 辻本、小島
			会計	尾崎	会計・出納		有元
			広報	田中善	会報誌 HP		青木幸 越智、尾崎、坂東
ならやま事業部		富井					
			管理	徳地			富江、青木幸
			里山	平田	副リーダー		森、福田、山本隆
			エコ	三瀬	副リーダー		富江、池山
			景観	太田	副リーダー		徳地、内河、田中善、西谷
			パトロール	小島	副リーダー		木村宥、坪井、塩本
			果樹	有元	副リーダー		川勝、尾崎
自然文化部		太田					
			月例	戸田	副リーダー		青木幸、徳地
			自然教室	富江	副リーダー		山本美

*グループ内の組織は必要に応じてチーフの選任を含めてGLが改廃を考案し、幹事会に報告する

2021年5月度幹事会報告

日時：2021年4月27日(火) 15:00～17:00

I. 会計・総務部より

1. 会員動向：退会 11 名、入会 5 名 163 名。

2. 会計報告：収支報告

II. 活動・行事関係

1. 3 カ月活動予定

- ・6月10日、佐保台小学校田植え実習。
- ・7月17日、夏だ休みだ里山で遊ぼう①

2. ならやまプロジェクト関係

- ・緑陰広場の水路側壁改修工事は秋に延期。
- ・一輪車置場のチェーン鍵はエコG担当。

III. 企画、助成金事業案件

- ・記念誌編集について総会後に検討再開予定。
- ・学びの森のモニュメントは学生からの提案をどう生かすかを検討中。
- ・各Gでの支出は予算厳守を。

IV. 喫緊・提案事項

1. 第20回通常総会

- ・5/15 13:30～ホテルリガレ春日野。
リモート参加も可能。
- ・幹事辞任、役職変更を審議するために臨時幹事会を開催する。

2. 総会関係資料は出欠返信ハガキとともに4月中に会員に送付する。

3. 今後のコロナ対策

- ・ならやま活動について、「全体活動は休止、必要不可欠な活動は各Gの判断による自主活動とする」

4. 鹿対策について情報収集した結果、2mの防護フェンスが必要。

V 広報、関係

- ・ネイチャーなら6月号編集内容確認

VI 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会 6/8 ・自然教室 中止
- ・平城京の草刈りは5月6～9日に実施

6月度幹事会：5/25(火) zoom 会議

以上



本誌2月号から編集委員の一員に加わりました。執筆者に協力して原稿を編集します。それらの原稿を最後にまとめて、編集委員全員で校閲を行います。編集委員の校閲意見は重ならないように全員で共有しますが、みなさんの着眼点が違い、おもしろいです。どうも私は文章の問題点を見逃してしまいがちですが、行合わせや段落等のレイアウト上の問題を見つけることは多いです。

話が変わります。新型コロナの感染者数等の国別一覧表のサイトを昨年見つけ、毎日1回は見る習慣がついてしまいました。当初、日本の累計患者数は世界で10番目ぐらいでした。欧米の感染爆発で50位近くまで下がり、今また少し上昇しています。なぜかイスラエルとオーストリアと3カ国が同じように動くことが多く、現在は、日本は37位、オーストリアは38位、イスラエルは31位となっています。ただし、両国の人口は900万人台で日本の1/10以下です。日本の人口当たりの患者数は138位です。要するに、日本の人口当たりの患者数は世界的に見るとそれほどでもない。それなのに医療崩壊寸前だと大騒ぎ。どうしてでしょうね。

行事案内

6月8日 月例研修会 集合場所変更

集合場所：近鉄大和高田市駅（南大阪線）

集合時刻：9:40

7月17日 夏だ休みだ里山で遊ぼう①

会員動向（敬称略）

<退会者>

4月27日：上田かつゑ

発行：奈良・人と自然の会

URL：http://www.naranature.com

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：

活動再開を待ちわびる誰もいないならやま